

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	feel小久保(多機能型事業所 児童発達支援 放課後等デイサービス)		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 10日		2025年 11月 24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	53	(回答者数) 24
○従業者評価実施期間	2025年 11月 11日		2025年 11月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 23日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組など	さらに充実を図るための取組など
1	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされ、専門的な支援が実施されている。また、事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担などについて丁寧な説明を行っている。	行動観察、検査結果の読み取り、保護者の方からの聴き取り、保育所など訪問支援時のご様子などをもとに、支援員と事前会議を行って作成している。支援目標を具体的にしていることで、保護者の方にとってもイメージがしやすくなっている。契約時に運営規定などご説明し、利用者負担などについて目で見て分かりやすいように別紙を用意している。	引き続き、契約の際に丁寧にご説明を心がけ、安心してご利用いただけるように取り組ませていただきます。お子さまのご様子や保護者の方からお聴きした情報を基に、支援計画に記載されている以外での必要な支援も都度実施させていただきます。
2	父母の会の活動の支援や、保護者会などの開催や、きょうだい向けのイベントの開催などにより、保護者同士やきょうだい同士の交流の機会を設け、保護者支援、きょうだい支援が行っている。	学期に1回以上、ペアトレを開催し、その後に保護者交流会を実施している。今年度は、ペアトレ研修なしのランチ会や、レジン・パースデーカード作成などの保護者交流会を開催し、参加していただきやすい雰囲気づくりに努めた。また、きょうだい向けの交流会も開催した。	引き続き、時間帯や曜日、イベント内容に留意しながらご参加していただきやすい形での交流会の開催を行います。
3	日頃からお子さまの状況を保護者と伝え合い、定期的に、面談や子育てに関する助言などの支援を行っている。	お迎えの際にfeelでのご様子を直接お話をさせていただいたり、連絡帳アプリで月に1度、ご相談事のお尋ねや相談の時間が取れる旨をお知らせしたりしている。お困りごとについては、療育の場で実践したり、その場でできるご家庭での対応をお伝えしたりしている。また、ご自分からお伝えされにくい方がいらっしゃる場合、日々のご様子などから定期相談(家族支援)をご提案し、孤立化を防ぐことに留意している。	引き続き、ご利用時にお子さまのご様子をお伝えしたり、ご家庭などのご様子をお尋ねしたりすることで、お子さまの状況について、保護者の方と共通理解をはかった上で支援を行っていくことで、お子さまだけでなく保護者の方の支えとなれるように邁進してまいります。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	工夫していることや意識的に行っている取組など	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点など
1	お子さまの活動スペースが不十分なことがあり、構造化された空間とは言えない。	部屋が狭いため、活動スペースが保たれるように玩具は可動式の棚に入れて、必要なもののみ出すようにしている。部屋数は少ないが、都度、パーテーションを用いて空間を区切ることで、静養できるスペースと活動スペースを分けている。	使用頻度の低い玩具が棚にあることで、お子さまが自分で遊びたい玩具を探す際に時間がかかってしまうことがある。使用している玩具の見直しを行い、数を絞ったり、必要な時のみ出すようにしたりすることで、スペースを十分に保ち、構造化された空間づくりをしていきたい。
2	事業所の活動プログラムが固定化していることがあり、通信やホームページ・SNSなどで、活動概要や行事予定、連絡体制などの情報や業務に関する自己評価の結果の公表が分かりにくいことがある。	4事業所間でプログラム内容を共有し、事業所内で固定化しないように工夫している。HPのほか、Instagramでも動画付きの活動記録を掲載し、より活動の様子が分かりやすくなるように留意している。	避難訓練や就学に向けた意識づくりなど、毎年変わらず行っているプログラムもあるため、クイズの内容を変更するなどして新奇性を保ち、お子さまが楽しく学ぶ機会を提供したい。HPやInstagramなどに活動内容やプログラム、自己評価結果を公表しているが、保護者の方へのお知らせの形を見直したい。
3	事故発生時の連絡体制や説明内容について、保護者の方に十分に周知できていない可能性がある。	契約時に、保険への加入や事故発生時の対応について説明を行っている。一方的な説明とならないように、ご質問などないかお尋ねしている。また、日々の療育でお子さまがけがをした際には患部に適切な処置を行い、お迎えの際にお伝えするほか、次回利用時に経過も尋ねている。事業所内では再発防止のために事故報告書を作成し、共有している。	引き続き契約時に丁寧に説明を行い、曖昧な受け答えとならないように、しっかりと現場検証し、スタッフ間で情報共有を行ってから伝える。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	一般社団法人 ころろ相談研修センター connect小久保		
○保護者評価実施期間	2025年11月10日		～ 2025年11月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	50	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	2025年11月10日		～ 2026年1月17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数) 8
○訪問先施設評価実施期間	2025年11月10日		～ 2025年12月27日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	40	(回答者数) 19
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者研修などを充実させ、家族全体としての支援を行えるような取り組みを行っている。	LINEやInstagram等のSNSを活用した発信を行い、研修情報を十分に周知できるよう意識した。研修の際は、知識や理論等を伝えるだけでなく、実際のご本人の様子なども伺いながら、ご家庭の中で活用していただきやすい情報を提供できるよう意識した。	引き続き、ご本人だけでなく保護者様も支えていけるよう、積極的に研修や交流会等を開催して参ります。また、すぐに取り組んでいただきやすい工夫などをわかりやすい形で保護者様にお伝えできるよう、支援員の専門性や知識の向上等に努めて参ります。
2	個人情報の保護や契約内容、支援計画の内容についての説明や相談を欠かさず行っている。	契約内容のご説明の際にはチェックリストを活用するなど、必要事項が漏れなく説明できるように工夫し、保護者様やご本人に不利益が生じることなく、安心してご利用いただけるような取り組みを意識して行った。	引き続き、契約の際に丁寧な説明を心がけ、保護者様に不安なく保育所等訪問支援をご利用いただけるよう取り組んで参ります。個人情報に関しても、事前に保護者様やお子さまからの許可を得た上で情報共有を行うことを徹底し、安心感を持ってご利用いただけるようにしていきます。
3	保育所等訪問支援計画作成の際には、お子さまの特性やニーズへの理解を活かし、発達についての知識や専門性等を十分に活用した上で計画を作成している。	本事業所での療育との連携や、発達検査等の客観的なアセスメントツールを活用した上で、支援計画を作成している。多角的な情報を活かし、普段のご本人の様子が反映され、課題の背景等が充分考慮された、有効な支援をご提案できるよう意識した。	引き続き、特性や発達についての職員の専門性を高められるよう、内部研修等の充実に取り組んで参ります。適切なアセスメントを実施した上で、ご本人の困りごとの原因に沿った支援方法を立案できるように努めて参ります。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所等で具体的に取り入れやすい工夫のご提案に不十分さがある。	訪問の際に、担任の先生方とお話をする機会を設けていただき、学校園との関係性を築いた上で、療育で上手くいった支援などをお伝えするように留意しているが、負担なく取り入れていただける方法のご提案に不十分さがあったと考えられる。	引き続き、支援員の専門性を向上させると共に、保育所等で負担の少ない支援方法を提案することで、学校園での生活の中で活用していただきやすいように工夫して参ります。また、保育所等における支援方法について気軽にご相談いただけるよう、訪問先施設様との信頼関係構築に努めて参ります。
2	訪問支援員からの知識・技術等の共有に不十分さがある。	訪問時の支援や、その後の共有等において、発達に関する専門性を活かして、支援や情報提供等を行うよう留意しているが、時間的な制約等もあり、支援員からの情報の伝わり方に不十分さがあったと考えられる。	引き続き、支援員の専門性が高められるよう研鑽を重ねると共に、支援員のスキルや、ご本人様との接し方について、訪問先施設様に分かりやすくお伝えするためのスキルを高めて参ります。
3	訪問支援を通じた課題や困りごとの解消に不十分さがある。	支援員は、内部研修等を通して発達に関する知識等の専門性を高めた上で、療育で上手くいった方法などをすぐに試していた支援を提案するよう留意しているが、困りごとによっては長期間の支援を要するものもあり、そうした支援に不十分さが生じたと考えられる。	引き続き、訪問支援の最終的な目標として、保護者様と学校園等がやり取りをしながらご本人様を支えていける環境を構築するという念頭に、訪問支援のない場でも活用できる情報や支援方法等の共有など、長期的な観点からもご本人の過ごしやすさにつながるような支援に努めて参ります。